

証言ドキュメンタリー

福島は語る

題字 高橋長英

福島の人々の心の奥底にある叫びを、土井監督が丁寧に丁寧に聞き取りをされた映画です。

そこから浮かび上がってくるのは、日本全体で等しく抱えるべき問題である原発事故を、被災した人々自らが個として抱えている現実です。本当は福島だけの問題ではないはずなのに。

たくさんの方にこの映画を見ていただき、原発事故とはどのようなものなのかを感じとって頂ければ幸いです。

避難者 H.Y

9月9日（日）西宮市勤労会館ホール

10時30分 開場（展示企画：原発事故による汚染の実態・福島は今等）

12時30分～15時30分 1回目上映

15時30分 土井監督トークとだるま森+えりこさん歌と演奏・

市民測定所の紹介

17時30分～20時30分 2回目上映

*短縮版（2時間51分）上映

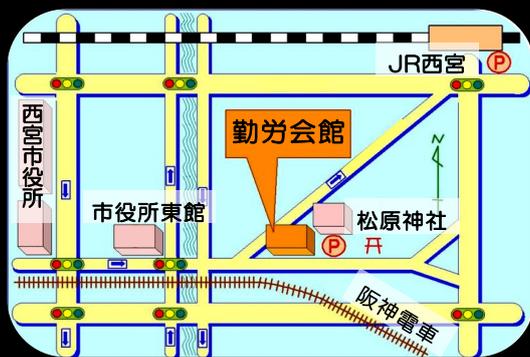
入場料1000円 学生500円（中学生以上）

阪神西宮駅東へ10分・JR西宮駅南7分



＜土井敏邦監督＞

ジャーナリスト。記録映画監督。イスラエル・パレスチナ問題を中心に取材活動。ドキュメンタリー映画「沈黙を破る」「私”を生きる」「異国に生きる」「飯館村—放射能と帰村—」「“記憶”と生きる」監督。著書に「アメリカのユダヤ人」「沈黙を破る」「パレスチナの声、イスラエルの声」何れも岩波書店



＜総合工作芸術家 だるま森+えりこ＞

美術家・舞台作家・楽器作家・絵本作家・パフォーマーだるま森と、元ファッションデザイナーで「仕事と趣味がだるま森」のえりこが構成するARTユニット。インターネットラジオ神戸長田エフエムわいわい『だるま森+えりこのデモクラティック・フラワーズ』パーソナリティー。全人協加盟プロ人形劇団。

「福島は語る」西宮上映実行委員会（連絡先：阪神・市民放射能測定所）

TEL.050-5317-4016 FAX:0798-34-2315

mail: shs.hanshin@gmail.com blog: http://hanshinshs.blog.fc2.com

『福島は語る』 作品紹介

【短縮版】（2時間51分）

第一章「避難」（25分）

「自主避難」をめぐる家族間の軋轢と崩壊、他県で暮らす避難者たちと福島に残る人びととの乖離、避難生活の厳しさと苦悩に引き裂かれていく福島出身者たち。

第二章「仮設住宅」（16分）

4畳半一間でのひとり暮らし孤独感と先が見えない不安。「避難解除」され「仮設」を出ても、大家族が共に暮らす元の生活に戻れない絶望感。

第三章「悲憤」（15分）

「補償」の負い目と“生きがい”の喪失。「帰村宣言」で補償を打ち切られた生活苦と先の見えない不安と病苦。“自死”の誘惑が脳裡を過ぎる。

第四章「農業」（29分）

「福島産だから」と避けられる農産物。福島を想いながらも他県産を求める自責と葛藤。農家は“農業と土への深い愛着”と、経営破たんの危機の間で揺れ動く。

第五章「学校」（14分）

差別を恐れ「原発所在地」出身だと名乗れない子どもたち。生徒数の激減で学校消滅の直面する大熊中学校の教師と生徒たちの闘い。

第六章「抵抗」（15分）

水俣病と同様に被害を隠蔽し矮小化する国家の体質。福島原発に象徴される根深い「東北差別」と“構造的な暴力”。事故の背後でうごめく国際的な原子力推進勢力の存在。それらと闘う反原発運動のリーダーたちの“抵抗”。

第七章「喪失」（41分）

「帰還困難区域」となった飯館村・長泥で、家と農地、石材工場を失った住民。追い打ちをかけるように、将来に絶望した跡取り息子も“自死”で失う。原発事故で「人生を狂わされた」被災者の慟哭。

最終章「故郷」（15分）

「住民の一人ひとりの人生全てを知る」故郷。「汚染されても美しい」故郷。原発事故が福島人に突きつけた“故郷”の意味。

原発事故から7年が過ぎました。日本は2020年の東京オリンピックに向けて浮き立ち、福島のことには「終わったこと」と片づけようとしているように感じます。しかし、原発事故によって人生を変えられてしまった十数万人の被災者たちの心の傷は疼き続けています。

100人近い被災者たちから集めた証言を丹念にまとめました。その“福島の声”を、忘却しつつある日本社会に届けたいと願い、この映画を制作しました。ぜひ、多くの方々に彼らの声を広げてください。

土井 敏邦



阪神・市民放射能測定所は、原発事故による放射能汚染から子どもたちを守ろうと避難移住してきた皆さんとの出会いをきっかけに、汚染と向き合い共に生きようと2013年5月に開設しました。今年で6年目になります。

事故から既に8年目。国は、汚染の実態や健康被害の事実を隠し、事故はもう終わったかのように帰還を進めています。さらに、私たちのような放射能測定を続けることや低線量被ばくの危険を語ることを、福島「差別」や風評被害を助長し、福島県民を苦しめているというキャンペーンを行っています。

このような中で、この「福島は語る」というドキュメンタリー映画に出会いました。

原発事故は、人災であり放射能汚染という何世代にもわたる最悪の公害を引き起こしました。国はすべての被災者を長期にわたって賠償・補償していく責任があります。

原発事故がもたらした真実をもう一度とらえなおすために、是非この映画をご覧くださいと思います。

阪神・市民放射能測定所 安東